

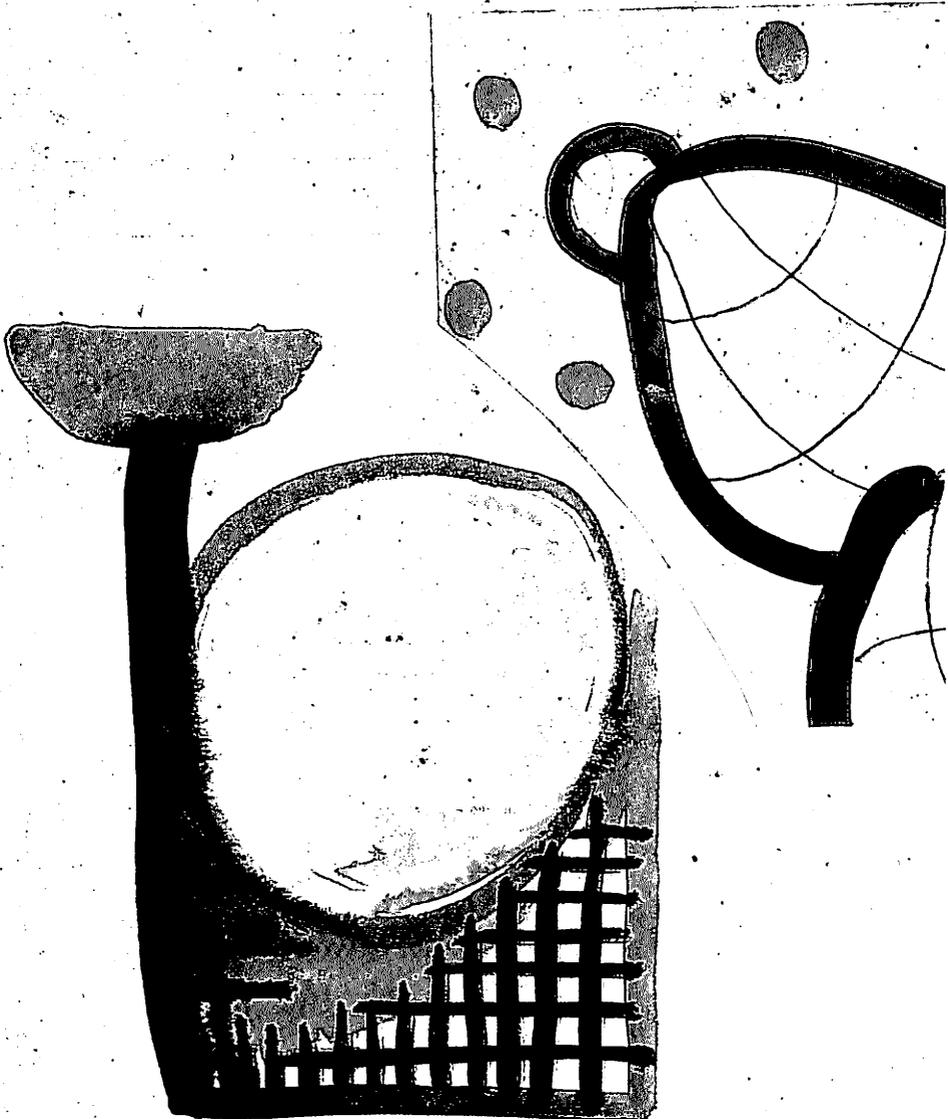
売読週刊

1992, 12/27

270yen

スクープ

消費者金融顧客リストが売られている



Ames

一橋大学

名門 石弘ゼミは銀行・ 商社へ

ゼミといえば一橋、一橋といえ
ばゼミ。

一橋大学は、戦前からいち早くゼミ制度を取り入れ、ゼミ中心の小人教教育を看板にしてきた。卒業生も「一学部出身」というより、「一ゼミ出身」と名乗ることが多い。ゼミは必修科目。私立大学のようにゼミなしの子が大半発生しない何とも恵まれた環境である。例えば、経済学部は定員約三百人に對して四十に及ぶゼミがひしめく。

三、四年生へア 討論で卒論を

石弘光ゼミ(財政学)を訪ねた。石教授は、政府税制調査会の委員など政府各種審議会委員を務めマスコミでもお馴染み。石ゼミは、看板学部の経済学部でも名門中の名門といわれる。



三年生の発表に鋭い視線を飛ばす石教授

論より証拠。四年生十二人(二人は留学、一人は大学院進学)の内定先を並べると――日本銀行、日本興業銀行、日本輸出入銀行、三井物産、東京海上、日本生命、それに大蔵省が二人と文字通り超一流揃い。

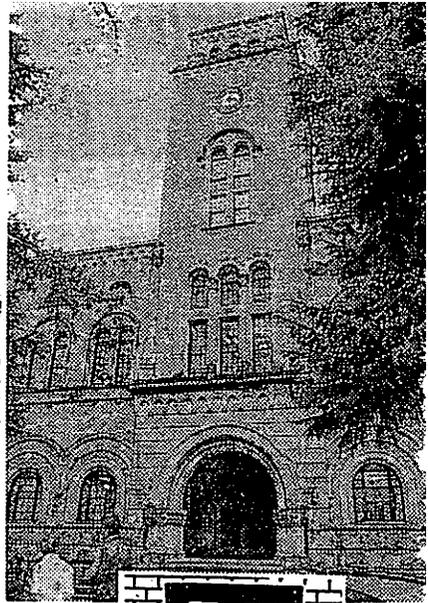
OB名簿を見るとやはり、一流企業がズラリだが、特徴は、日本興業銀行が目立つことだ。卒業生二百十六人中、何と三十二人を占め、一学年三人も入行した年がある。海外勤務、留学も圧倒的に目立つ。

「ゼミで一番力を入れて指導しているのは、卒論です。卒論は永久に図書館に残りますし、学生時代の唯一の生産物ですから」

石教授が言う通り、三年生の七月には卒論のテーマを決めなくてはならない。ゼミの時間では、三年生の四月から原書を読み始めるが、その後、わずか三か月間でテーマを探すわけだ。そして、夏休み前に、教授はそのテーマに沿った原書を直接、各学生に与えていく。

「訳本の出ていない原書を選び学生に渡すんですが、これは、僕の先生だった木村元一教授のゼミから、連絡と受け継が

「産学ルート」⁵



「ゼミの「橋」の伝統を引き継ぐ一橋大学

異色・加藤哲郎ゼミは「マヌヘ」

れている伝統です」と石教授。石ゼミは一橋の財政学ゼミでは四代目に当たるが、このへんが「ゼミの「橋」といわれるゆえんだらう。

夏休み明けには、その原書をもとに三年生が順次、発表を行っていく。一回のレジュメがワープロ打ちで三十一五十頁の大作。これが卒論の土台になる。

その際、三年生と四年生がペアをつくり、三年生の発表に対して、四年生が「コメントシート」として、評価、助言を与えるという形式をとっている。

「企業の投資資金の調達方法は三つあるけど分かる？」

「その数式のθの意味は？」

「こんな質問が四年生から次々、飛んでくる。教授は、要所所で口をはさむだけだ。

「はたから見れば、原書を読むのはキツイし、上級生の質問は厳しく映るかもしれませんが

が、色々な人の意見を聞くことで卒論が修正されていきますから、結構、楽しいですよ」といっのは四年生のゼミ幹・石川淳史君。

OB全員の顔と名前は一致する

ゼミ員が楽しみにしているのが、夏と冬の合宿。

「夏は登山、冬はスキーと決まっています。今年の夏は妙高に登り、露天風呂に入ってきました」

と前出の石川君は言う。

「僕のゼミは、登山とスキーが、必修科目です。僕よりうまかつたら、(ゼミに)採用しますよ」と教授は笑う。

「こんな名門ゼミだから、さぞかし志望者が殺到する？」

「いやいや。十人の定員のと

ころ、志望者は十四、五人ぐらいいです。偏差値世代になって、ゼミ選びも自己調整してしまうようです。どうも大胆さに欠けているようです」

昭和四十四年卒業の第一回生以来、定員は十人で、多くても十三人。OBも二百人ちょっと。

「マンツーマンの指導をするためには十人が限度。来年は八人にしようと思っているぐらいです。その代わり、OB全員の顔と名前は一致してまずし、就

職先、出身高校、卒論のテーマまで覚えていきますよ。

就職に関しては、僕は無力なんです。せいぜい、興銀と三菱商事、両方受かったんですが、どうしようというふうな相談に乗るぐらい。なかには、僕になんか、全然世話になつていないと思つて、卒業まで報告に来ない者もある」

華麗なる就職成果は、連綿と続くゼミの威力なのである。国立キャンパスを歩く学生に

大関株式会社

ワンカップ、言うことなし。

ワンカップ®大関

清酒180ml瓶詰 ※飲酒は20歳を過ぎてから。

夏合宿、妙高山頂で。中央、上半身裸で頑張るのが石教授



豊富なテーマから卒論へ展開

一橋大学は東京商科大学の伝統からか、就職に非常に有利な大学といわれている。その根拠を示すため、東大、一橋、早慶の就職者数と比べてみた。

商社、銀行、損保、生保、メーカーなど「超難関企業」とされる五十社を本誌がピックアップし、今年の就職者をハジキ出した。その結果は、東大八百四十人、一橋四百七十人、早稲田千八百人、慶応千六百人。

就職者の概数が東大二千人、一橋九百三十人、早稲田七千五百人、慶応四千四百人だから、一橋の健闘ぶりがうかがえよう。

ある大手商社・人事担当者によると

「早慶に比べ、学生数が桁違いに少ないうえ、多くのOBが入社しているのが有利な原因」というが、マスコミ関係にはそう多く就職していない。

社会学部の加藤哲郎ゼミ(政治学)は、マスコミに多く就職者を出すと、同学部のなかでも、最も人気が高いゼミとい

う。例年、競争率は三倍を越す。

マスコミ関係に就職したあるOBはこう打ち明ける。

「政治学が専門といっても、うちのゼミは、かなり幅広い分野の研究をします。先生自身、「新聞記者になりたかった」と

もらしたこともあり、そのせいか、ゼミのテーマがジャーナリストックであることも多いんです。ちなみに私たちの年は、

「ダブル選挙の得票分析と、自民党の日本の政治手法」がテーマで、やはりマスコミ志望者が集まりましたね。例年、半数近くがマスコミ志望者で、結果的に三人前後が実際に就職してきます」

加藤ゼミは、第一回生が昭和五十五年卒業で、比較的若いゼミ。OBは百三十人とまだ少ないが、そのうちマスコミには二十六人が就職している。その数は金融関係に就職した者をして

ぎ、一橋の中では異色ゼミといえるだろう。マスコミ就職者の内訳は、NHK、日経新聞各五

贅を尽くした空間に
ゆったりと
極上の時が流れる。

山陰・米子 皆生温泉
華水亭

鳥取県米子市皆生温泉 ☎(0859)33-0001

人、朝日新聞三人、共同通信、時事通信各二人、読売新聞、関西テレビ……。

ゼミ室を覗くと、熱心な議論の真つ最中だった。

テーマは少子化社会、エイズ問題、家族問題 大衆論、団塊の世代論……と次から次に発展していき、いかにも社会学部のゼミらしい。

「核家族化して、家族が崩壊していくという論議があるが、一方で『冬彦さん』のような緊密な人間関係が生じたともいえるんじゃないか」

などという、今日的、質問が飛ぶかと思えば、トマス・モア、ロバート・オーエン、マックス・ウェーバー、ヘーゲルなどという思想家の話題にも飛ぶ。

「専門の政治学にこだわらず、ゼミではあらゆる社会問題を取り上げていきます。各自が切実に追究したいテーマを見付け、それについてみんなで議論

することによって切り口を探し、それを卒論に連ねて行くのです。だから、卒論は国際問題あり、政治思想史あり、環境問題もある。「日米貿易摩擦のなかの競馬馬の自由化」などという変わったものもあります」

と加藤教授。全共闘世代で、東大法学部時代は、学生運動の闘士として知られ

「今でも、自称左翼です。ただ、自分の考えを率直に学生におつけるだけで、全く強要はしません。」
大学卒業後は、出版社に就

最新治療情報

まじめな、徹底した
データの発表です。

13万3千人の治療実績

インフラクション やつぱり治る。 色盲色弱

〈和同ドクターズグループ編刊〉送料税共一、〇〇〇円

色盲色弱では入れない会社・大学リスト付
**就職と進学への
アドバイス**

和同ドクターズグループ刊 送料税共500円
※お急ぎの方へ・全国学校保健室へ寄贈済、
万一ない場合はご一報・即再寄贈します。
●お申込みお問い合わせは電話か、
ハガキで直接下記へ

和同ドクターズグループ
(電話注文) 03-3953-2101
〒171 東京都豊島区目黒3丁目4-14
(目黒駅右隣のビル)

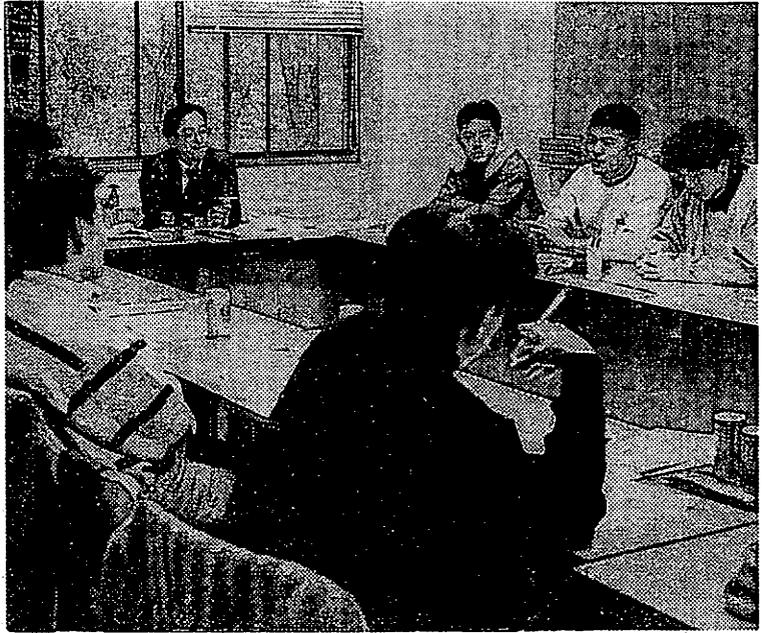
和同会 03-3953-2101
03-3953-2101

三者に分かれて ディスカッション

職、その後、大学院を経ず、一橋大へ赴任。教授の経歴も一風変わっている。

三年生の前期は、共通のテーマで議論を行う。今年のテーマは「日米関係」。一回ごとに占領政策、安保、社会労働、軍事外交、文化教育……という具合にテーマを絞り、突っ込んだ議論を展開していった。

その際、工夫されているのは、各回とも、日本側、アメリカ側、そして中立派の三人がチームをつくり発表していく点。「三者でディスカッションを



▲議論白熱する加藤哲郎ゼミ

していくほうが論点、問題点が浮き彫りにできる」(加藤教授)というが、当番以外の学生も活発に意見を戦わせたという。夏合宿は、千葉県白子町で実施されたが、そこでは現地調査会が行われた。

「リゾット開発の政治学」というテーマで、ポストパブルのリゾット計画の実態調査をしました。手分けをして、町役場、現地の不動産業者、地元新聞社などを取材し、リポートにまとめました。パブルがはじめて、リゾット計画が進行しないという状況の中、県、町、町民の三者の間に対立が生じていることが取材を通してわかりました。新聞などで読んでいた現場を実際に歩くことができ、有意

義でした」と三年生のゼミ幹・今村史子さんは振り返る。このあたりもマスコミ志望者には有益だろう。

三年生の秋からは、各自がテーマを探し、それについて自由討論が行われる。そのテーマは四年生に引き継がれ、卒論に発展する。

秋季ゼミでは、神戸大、東京外大、大阪市大との「対抗ディベート大会」が恒例。

「マスコミへの就職指導は特にしてませんが、ゼミ活動でいろいろなものの方ができるようになった結果、就職者が多いのかもしれない」加藤教授の弁である。

(下田 陽)